特集　災害ボランティア

□平成16年度豪雨災害における ボランティア活動について

～「Nボラ市民」方式による 災害ボランティア救援態勢～

新居浜市社会福祉協議会　永　易　英　寿

(1)被害概要

昨年、日本中を襲った台風の数は、10回、新居浜市に上陸したのは、5回。そのうち大きく被害をもたらしたのは、8月18日の15号台風と9月29日の21号台風の2回。

1度目の水害の被害は、亡くなった方が3名、重傷者1名、住宅は全半壊93棟、床上浸水339棟、床下浸水982棟でした。2度目は、亡くなった方が5名、全半壊140棟、床上浸水900棟、床下浸水1,200棟でした。新居浜市は、人口127,000人程の瀬戸内海のほぼ中央に面した四国屈指の工業都市です。

市内には18の校区があり1度目の時は主に3校区が被害に遭う局地的なものといえますが、2度目の時は雨の量も多く想像もできないような大量の流木が川を堰きとめて氾濫させ、堤防を越えて水が流出して被害が大きくなりました。市民だれもが、なんらかの被害に遭うもので、本人は免れていても親戚や友人が被災した人が必ずいるというような全市的なものでした。

後に知ったことですが新居浜市は明治32年に500名程の死者を出した大水害がありました。普通台風は太平洋を通過し、今回のように瀬戸内海を横断することは殆どなく、水害には無縁の地域と思われていました。

(2)8.18新居浜集中豪雨災害(15号台風)の復旧活動

1度目の水害は、愛媛県・新居浜市にとっても、また行政やわれわれ社協にとっても、これまで経験したことのない大がかりな災害復旧支援態勢を整えることが必要になり、各機関にとまどいがありましたが、被災された皆さまに、私たち社会福祉協議会としても何かできることはないかと考え、8月19日正午過ぎ、経験も無いまま「社

センターの様子

協災害ボラセンターの様子ンティアセンター」を設置することを決定し、ホームページで広報し始動しました。

初動期には、復旧活動状況や被災状況などの情報がいき渡らなかったり、スコップや一輪車などボランティアの活動資材や健康管理・安全衛生面に使う消毒液、タオル、マスク、飲料水などの物資供給が遅れがちでした。

センター運営に関し、マスコミ関係者の協力や新聞折込広告で緊急募集を掲載いただいた企業もありました。また、ホームページを社協スタッフが日々更新して、センターの運営状況、ボランティア活動状況などを適宜に発信提供することにより、多くのボランティアや賛同者を募ることができました。

災害復旧ボランティア活動としては、企業など各方面から参加ご協力をいただきました。なかでも、高専生や市内 5 校の高校生の活躍が特筆できます。また、四国各地消防署の非番職員の皆さまには、被害現場での先陣(現地アドバイザー)として、他のボランテイアに模範的な行動、指示をいただき感謝しています。災害現場で活躍いただいたボランティア以外にも、看護、送迎、後片付け、洗濯、名札作りと多岐にわたるボランテイァの皆さまにご協力をいただきました。活動初動時に福井県から 4 トントラック 2 台分(土のう袋、スコップ、一輪車等)の活動資材をいただき非常に役立ちました。また、タオルや飲料水等の提供をお願いしたところ、東京のホテルをはじめ企業など多くの団体、方々からご協力いただきました。

高校生のバケツリレー

非番消防職員（四国管内）

小学生と保護者

洗濯ボランティア

非番消防職員(四国管内)
小学生と保護者
洗濯ボランティア

ボランティアの送迎に、運転手付バス等の無償提供、ボランティアの疲労回復に浴場の無償提供、ボランティアの負傷に病院のご協力もいただきました。

一方、ボランティアの活動資材等に必要な、ボランティア活動支援金の募集をお願いしたところ多くの支援金をお寄せいただきました。

以上のように、全く、手探りから始めた「社協災害ボランティアセンター」でしたが、皆さま方のご協力のお陰で、なんとか機能することができました。

救援活動におおかたの見通しがつきましたので、9月10日をもって「社協災害ボランティアセンター」は閉鎖させていただきました。

9月10日までのボランティア活動延人員は、8,229人(センター扱い分)になり活動を実施した世帯は、194戸になりました。

(3)9.29台風21号災害の復旧活動

この経験をもとに徐々に態勢を整えていたところ、2度目の水害が起こりました。

1度目のセンター運営の経験を活かし、即座にセンター設置を決定し、マスコミ各社へのお知らせやホームページで広報しました。

初めから行政と社協は協働態勢をとり、社協に設けられた災害ボランティアセンターのミーティングには毎日行政からの参加があり、センター運営の意思疎通、活動・被害状況、ニーズ把握、物資供給など情報共有がはかられ、社協のやるべきことと行政のすべきことを整理・実践することができました。

被害が市内全域に広がっておりましたので、行政と連携し自治会単位での身近な住民相互の助け合い活動を促しました。市民意識も変化が生じ、1度目は土嚢がないと行政にもらいに行っていましたが、行政の働きかけもあって、2度目は自分で土嚢を作るようになりました。自治会を中心とした助け合い活動も始まり、センターはその救援が主な役割になっていきました。実は台風の直撃はもう1度ありました。10月20日の台風23号は全国的に大きな被害を出したものですが、事前に洪水の原因になりそうな流木を取り除いてしまうというような市民の動きも始まりました。

災害復旧ボランティア活動としては、前回同様、県内外を問わず多くのボランティアにご協力をいただきました。なかでも、フェリー会社、入浴施設、宿泊施設の方々に賛同頂き実施した「ヘドロかき出しツアー～大阪南港から四国新居浜へ思いをつなぐ～」では、関西からきたボランティアに活動への元気をいただき被災者の心の癒しやボランティア間のネットワーク拡大へとつながりました。

ヘドロかき出しツアー

また、活撫動資材としては、スコップ、一輪車を建設業協会、長靴、ゴミ袋、飲料水等を企業などからご協力いただきました。

建設業関係のボランティア

「社協災害ボランテイアセンター」は、前回の経験をフルに活用し、皆さま方のご協力のお陰で運営・機能することができました。

救援活動におおかたの見通しがつきましたので、10 月 27 日をもって「社協災害ボランティアセンター」は閉鎖させていただきました。

10 月 27 日までのボランティア活動延人員は、4,883 人(市社協扱い分)になり活動を実施した世帯は、353 戸になりました。

また、10 月 29 日現在の支援金は、4,789,540 円になりました。

「社協災害ボランテイアセンター」は、1 度目は 8 月 19 日に立ち上げ 9 月 10 日をもって閉鎖しましたが、9 月 29 日の 2 度目の台風で再開することになりました。結果的に 10 月 27 日までのおよそ 2 か月半活動し、ボランティアの延べ活動者数は、1 万 3,112 人でした。

センター閉鎖

ボランティア総数

	8.18	9.29	計
高校生（市内）	2,618	2,303	4,921
高校生（市外）	314	50	364
教　　師	290	152	442
中　学　生	228	57	285
小　学　生	6	15	21
県　職　員	418	81	499
一　般　市　内	2,813	793	3,606
一　般　市　外	942	990	1,932
一　般　県　外	600	442	1,042
計	8,229	4,883	13,112

(4)「N ボラ市民」方式と「祭り文化」

新居浜市社会福祉協議会は、平成 15 年 4 月に従来の「ボランティアセンター」を「ボランティア・市民活動センター」に組織替えをしていて、日頃から NPO 法人やボランティア団体、市民活動団体、企業等との関係づくりに努力してきました。それぞれがバラバラに活動していた地域もあると聞いていますが、水害のボランティアではヘドロのかき出しなど力仕事が多いので若い力が必要とされ、また、他機関との多様な連携が重要となり、企業や NPO または高校生などあらゆる方々との協働が欠かせません。「N ボラ市民」(「N」は NPO、「ボラ」はボランティア、「市民」は市民活動を意味し、N は Niihama の N でもある)と私たちは呼んでいますが、すでに新居浜市スタイルが作り上げられています。また、新居浜市には、古くから伝わる四国三大祭りの 1 つである豪華絢爛・勇壮華麗な「新居浜太鼓祭り」(毎年 10 月 16, 17, 18 日実施)があります。その祭りを中心とした地域での助け合いが災害時にも活かされ、「祭り文化」による災害復旧活動も行われました。新居浜太鼓祭りた。これらキーワードに災害救援という同じ目的に向かって協働することができました。

新居浜太鼓祭り

(5) 災害ボランティア懇談会開催

（10 月 30 日）

「社協災害ボランテイアセンター」閉鎖後、すぐに災害時のボランティア活動を様々な角度、視点から振り返り、今後の災害・防災を共に学ぶために「H16 新居浜災害ボランティア懇談会～2 度の災害を乗り越えて～」を開催し、多くの市民が参加しました。懇談会では、「被災者の声」として自治会長と一般市民、「現地ボランティアセンターの立ち上げ・運営」として社協スタッフ、「ボランティアを体験して」では市内外のボランティァ、企業、青年会議所、高校生、大学生及び一般主婦、「建設業会とボランティアの連携」として新居浜建設業協同組合、「医療ボランティアの取り組み」として看護ボランティアグループ、「行政との連携」として社協スタッフ、「議会との連携」として県議会議員など様々な立場の 19 名の発表者が体験談を語り合いました。今後は、活動を通して得たノウハウと、この懇談会で得た教訓、反省点をきちんと整理し、全国へ向け発信したいと考えています。

懇談会の様子

被災された皆さまの一日も早いご復旧を願うとともに、ご支援・ご協力いただきました多くの皆様方に厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。